

## 結論

モルモットの内耳で発見されたカルシウム結合性蛋白質CBP-15はそのアミノ酸配列からparvalbuminのサブタイプであるOMと考えられ、モノクローナル抗体および質量分析によりこれを確認した。

OMの検出は哺乳類の正常組織においては初めてのことであり、モルモットのほかラット、マウスのコルチ器にも存在していた。モルモットにおいては、外有毛細胞に特異的に存在していたことから、OMが外有毛細胞内のカルシウム制御を介して、哺乳類の聴覚における優れた周波数弁別に重要な役割を果たしているものと考えられた。

付記：本研究はワシントン大学動物実験委員会の承認を得ている。(Approval Nrs.93227 and 94103)。

謝辞：本研究は米国ワシントン大学においてNIDCD-NIH grants DC01374 and DC01414 の助成を受けて、Isolde Thalmann、Ruediger Thalmann 両先生のご指導のもとに行われた。両先生に心より感謝致します。また、ご指導、ご校閲を頂いた筑波大学臨床医学系耳鼻咽喉科草刈潤教授に深甚なる謝意を捧げます。

## 文献

- 1) Spoendlin H : Innervation patterns in the organ of Corti of the cat. *Acta Otolaryngol* (Stockh) 67 : 239-254, 1969.
- 2) Brownell WE, Bader CR, Bertrand D : Evoked mechanical responses of isolated cochlear outer hair cells. *Science* 227 : 194-196, 1985.
- 3) Kalinec F, Holley MC, Iwasa KH, Lim DJ,